社会とのかかわり

スポーツ

~"心をひとつに"復興支援チャリティトーナメント~

日本女子プロゴルフツアー公式戦である本大会は、2011年5月5日から8日まで茨城ゴルフ倶楽部で開催されました。本大会には世界の強豪が集い、当社エアーサロンパスCMキャラクターの宮里藍選手も出場しました。

東日本大震災で被災した茨城県での開催となり、大会期間中は"心をひとつに"を合言葉に様々なチャリティ活動が行われました。当社はギャラリープラザ内の久光薬店での販売利益及び会場で集めた募金の全額を茨城県の復興のために寄付しました。観客動員数は29,477名とたくさんのお客さまに、ご来場いただきました。

当社は、本大会に特別協賛しています。



優勝したアン・ソンジュ選手



会場内の久光ブース

◆ 東京マラソン2011

2011年2月27日東京都庁をスタート地点として東京マラソン2011が開催されました。ゴール地点の東京ビッグサイト(フルマラソン)と日比谷公園(10km)で薬店を開設し、完走者約35,000名にエア・プロンパス®ジェットαのサンプル配布を行いました。

また2月24日~26日の期間、東京ビッグサイトにて東京マラソンEXPO2011も開催され、久光薬店を出店し、サロンパスA®、エア®サロンパス®などの販売、のびのび®サロンシップ®Sのサンプル配布を行いました。更にプロコーチの青山剛氏の講演会を実施し、東京マラソンのランナーの皆さまにお役に立つ情報も発信しました。

当社はこの大会に協賛しています。



東京マラソンEXPO2011



アフターケアコーナーでのサンプル配布

◆ 久光製薬スプリングス

当社では、1948年から女子バレーボールの自社チームを組織化、2008年に創部60周年を迎えました。現在「久光製薬スプリングス」として、日本最高峰のリーグ・V.プレミアリーグに所属し、地域に根ざしたスポーツ支援活動を行っています。

◆ バレーボール教室の開催

毎年、本拠地である佐賀県や練習拠点の兵庫県を中心に、バレーボール教室を開催しています。小学生からママさんバレーまでと、幅広い年齢層を対象とし、バレーボール競技の発展・向上に努めています。スプリングスのコーチスタッフ、選手が講師として積極的に参加し、参加者やその保護者の方々と様々なコミュニケーションを図っています。

また、指導者研修会も毎年、佐賀県で実施しており、 県内の小中高のバレーボール指導者が参加。トップ リーグのコーチングを伝えることにより、地域の競技レ ベルの向上を目指しています。

◆ SALONPAS CUPの開催

2010年9月11日~20日、ベトナムのホーチミン市にて、アジア国際女子バレーボール(U-21)大会『SALONPAS CUP』が行われました。参加国は、日本、中国、韓国など10か国で、熱戦が繰り広げられました。海外子会社である久光ベトナムが特別協賛する『SALONPAS CUP』国際大会を実施するのは今回で5回日です。

平成22年度 第21回全九州選抜 高等学校バレーボール大会

2011年2月10日~13日大分県立総合体育館を主会場に、各県大会の男子・女子上位4校が出場し、計64チームによる熱戦が繰り広げられました。本大会に当社は特別協賛を行い、地域の高校生のバレーボール技術の向上、また青少年の育成を支援しています。



久光製薬スプリングス





SALONPAS CUPの試合



開会式の様子

40 41

社会とのかかわり

教育·啓発

◆とっても健康セミナー

2010年10月19日鹿児島県 ホテルヴェルビューか ごしまにて第33回とっても健康セミナーが開催されました。今回は鹿児島大学 医学部保健学科臨床理学療 法講座教授 米和徳先生を講師に迎え「ツライ痛みよさよなら ~何とかしたい! 腰痛・関節痛~」という演題で講演を行いました。

約400名の来場者にはライフセラ美容液マスクなどのサンプル配布を実施し、当社商品をご体感いただく良い機会となりました。



とっても健康セミナー

◆ 日本赤十字社への協力

1997年から年末の海外たすけあい街頭募金活動に協力しています。2010年には、全国で475名の従業員が参加し、募金を呼びかけました。また、従業員による献血も継続的に協力しています。



福岡支店



東京本

地域貢献

◆ 鳥栖市民講座

2010年11月28日鳥栖市民文化会館にて「第15回 久光製薬鳥栖市民講座」を開催し、作家の渡辺淳一氏 を講師に迎え、「熟年革命」という演題で講演会を行い ました。また2011年2月6日には「第16回久光製薬鳥 栖市民講座」を開催し、人気お笑いコンビ、パンクブー ブーによるお笑いライブと植村花菜さんによるトーク &ライブを行いました。

ご来場の皆さまからお預かりした入場料は全額、九州 国際重粒子線がん治療センター(サガハイマット)支援 として、公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団 へ寄付しました。



サガハイマットへ寄付贈呈(2011年2月6日)

◆ お茶会の開催

文化活動の一環として、春と秋の年2回、九州本社構内において「茶会」を開催しています。年間延べ500名を超えるお客さまに参加いただき、地元の茶道文化の発展ならびに芸術文化の振興に貢献しています。また、従業員も参加し地域の方々との交流を図っています。

第9回は東日本大震災義援とし、被災者の救済を支援するため会場受付で義捐金を募りました。



第9回 春の茶会

◆ 工場見学

国内の生産拠点である鳥栖工場、宇都宮工場では、一般のお客さま向けの工場見学を実施しています。「サロンパス®」「モーラステープ®」の製造工程を見学いただきながら、お客さまに安心して使っていただき喜んでいただける商品作りや、製造過程における環境対策などを紹介しています。また、鳥栖工場ではお客さまへ実演による湿布薬の貼り方教室も開催し、好評をいただいています。

2010年度工場見学数

鳥栖工場4,881名宇都宮工場1,023名



工場見学(鳥栖工場)

◆ 夏祭りの開催

九州本社では、2回目となる夏祭りを当社グラウンドで開催しました。地域の方々や従業員とその家族など約2,000名が参加しました。特設ステージでの従業員によるバンド演奏や子供たちによるヒップホップダンスを披露しました。また焼き鳥やたこ焼、カレー、カキ氷など従業員手作りの屋台を出店し、賑わいました。さらに、盆踊り、大抽選会なども行い、夏の夜に親睦を深めました。



夏祭り

◆ 公益財団法人 中冨健康科学振興財団

1988年に「多くの人々の健康と福祉の増進に役に立ちたい」との趣旨のもと、中富正義 久光製薬元会長の私財の提供と、当社より、創業140周年記念事業の一環として、事業収益の一部を提供し設立されました。財団設立以来23年間で延べ808名の研究者へ7億7千万円の助成金などを贈呈しています。

2010年度は、研究助成金を60名、中冨健康科学振興賞を2名、総額6千万円を贈呈しました。



◆ 九州国際重粒子線がん治療センタープロジェクトへの支援

当社は、九州国際重粒子線がん治療センタープロジェクトに対し、総額8億円の資金支援のほか、その事業を支援する様々な活動を行っています。

重粒子線(炭素線)を使う世界最先端のがん治療施設 (愛称 SAGA HIMAT)を開設する本プロジェクトは、日帰り治療が可能となるように九州新幹線・新鳥栖駅前に施設の建築が進められています。このプロジェクトを通じて、がんに苦しむ患者さまのQOL向上と、がん克服に寄与できればと願っています。



九州国際重粒子線がん治療センター(イメージ図)

42 43

社会とのかかわり

久光製薬公益活動支援事業

地域のボランティア精神に支えられた公益的活動への支援を通じて、豊かな市民社会づくりへと発展することを期待し、鳥栖市を中心に活動拠点のある26団体へ総額約1千万円の支援金を助成しました。



久光製薬公益活動支援事業目録贈呈式

◆ 久光製薬カルチャー・スペシャル 「じゃじゃ馬馴らし」

2010年10月~11月にかけて、福岡、大阪の劇場にて久光製薬カルチャー・スペシャル「じゃじゃ馬馴らし」が公演されました。「世界に通じる文化の継承」をテーマに、1999年から開始した蜷川幸雄氏(2010年11月3日に文化勲章を受章)演出による演劇の特別協賛は今回で9作目となりました。また、福岡会場(北九州芸術劇場)では薬店も開設し、サロンパス®等の医薬品のサンプル配布と販売を行いました。



久光製薬カルチャースペシャル チラシ

◆ 2010年度 久光ほっとハート倶楽部

従業員と企業が一体となった社会貢献活動として2007年にマッチングギフト「久光ほっとハート倶楽部」を設立、2010年度は11団体に対して寄付を行いました。従業員からの毎月の寄付金と同額を会社が拠出します。3月11日の東日本大震災においては、日本赤十字社を通じ、被災地へ500万円の義捐金を寄付しています。

2月末時点での倶楽部会員数は890名で、従業員の約6割が参加しています。

【2010年度 寄付先】

・藍工房(東京都世田谷区)・国際セラピードッグ協会 (東京都中央区)・i-net(千葉県浦安市)・ファイバー リサイクルうらやす(千葉県浦安市)・ロシナンテス (福岡県北九州市)・日本クリニクラウン(大阪府大阪市)・日本盲導犬協会(東京都渋谷区)・社団法人日本てんかん協会(波の会)(東京都新宿区)・ぽっぽわーるど(佐賀県鳥栖市)・わかば(佐賀県鳥栖市)・しょうがい生活支援の会すみか(佐賀県鳥栖市)

◆ 中冨記念くすり博物館

当館の設立は1995年。くすりの文化を後世に伝えようと、くすりに関する歴史資料を公開しています。敷地内には薬用植物園も併設し、通年、350種余りの薬用植物をご鑑賞いただけます。くすりと健康を見つめることのできる施設として、生涯学習としてのご利用も多く、様々な団体様よりお問い合わせをいただいております。

常設展示では、イギリスから移設した120年前の薬局や、珍重な70種余りの生薬、そして配置売薬(発祥した江戸中期、当地の名が田代だったので田代売薬と呼ばれた)にまつわる資料をご覧いただけます。

年に2回行っている企画展示では、展示のテーマに 沿って資料を公開しています。2010年度に開催した 業籠(携帯用くすり入れ:春夏の企画展)や看板(秋冬の 企画展)展示では、古くは江戸期の資料に始まり昭和 期のものまで展示しました。ずらりと並んだ資料に、 来場者の感嘆の声や感動が生まれていました。



出所 裕二 様(写真中央) てんかんは脳の病気で、全国

てんかんは脳の病気で、全国に約100万人の患者さんがいます。早期発見・早期治療により70%以上の人が、発作の無い生活を送ることが可能です。

しかし、てんかんには様々な症状とともに、不安やうつ、 行動障がいなどの合併障がい、医療や生活の問題、学校や 仕事の問題など、様々な悩みをもたらすことがあります。

これらは発作以上に患者さんを困らせることがあります。

(社)日本てんかん協会は、国際てんかん協会の日本支部として、日本を代表する当事者中心の組織です。47都道府県に、地方活動の拠点となる支部があります。協会では、発作以外の様々な悩みにお応えするとともに、てんかんを正しく知ってもらうための、啓発活動に取り組んでいます。



国際セラピードッグ協会 大木 トオル 様(写真右側)

動物愛護団体として日米の友好・親善に貢献しています。捨て犬たちの救助と共にセラピードッグ育成のパイオニアとしてAAT(動物介在療法)の普及を33年にわたり行っています。障がい者施設、高齢者施設、病院、教育の現場などで活動し、年間約12,000名の方々のケアーを行い、多くの症例と成果を出しています。東日本大震災における要介護を必要とする避難所や仮設住宅へのセラピードッグ活動も開始しています。



藍工房 竹之内 睦子 様

藍工房は1983年6月1日、世田谷区若林に藍染めを中心とした伝統技術を用いて、障がい者が自主制作・販売を行う自主運営の作業所として発足しました。協力して働く中で、互いの能力を開発、自立性・社会性を養い、自分の意志と力で社会と交わることを学び、経済的自立を図ることを目指し活動しています。作品売上は工賃として利用者に還元されます。2008年4月1日、就労継続支援事業B型施設に移行。三軒茶屋にてランチ・喫茶を提供していた藍カフェ&ギャラリーは2010年4月1日、藍工房の従たる事業所として、アンシェーヌ藍の店名でフレンチレストランに生まれ変わりました。調理、フロア等の仕事を通して、就労への準備をしています。

久光 ほっとハート 倶楽部委員 コメント



委員長 牟田一則

今年で3年目を迎えた久光ほっとハート倶楽部はこれまでに34団体に寄付を行ってきました。この「ほっとハート」には「熱い思いやりの心」と同時に「心をほっとさせる」という意味が込められています。

寄付先は当倶楽部の会員からの推薦をもとに、運営委員が直接団体さまへ出向き、どのような活動をされているのかなどのお話を伺い、当倶楽部の主旨に照らし合わせ決定させていただいています。年間の寄付数の枠は特に決めてはおりませんが、これからも多くの団体に支援をしていきたいと考えています。

44 45